

日本民衆詩集

編者紹介

岡本 潤 おかもと じゅん 1901年生 詩人 新日本文学会会員
詩集『檻樓の旗』『笑う死者』自叙
伝『罰当りは生きている』ほか

関根 弘 せきね ひろし 1920年生 詩人 新日本文学会会員
『関根弘詩集』『関根弘詩論集』
『わが新宿』『東大に灯をつける』
ほか

日本民衆詩集

1970年5月30日 第1刷発行

¥680

編 者 岡本潤・関根弘

発行者 東京都千代田区西神田 1-2-15 石合ビル

崔 容 徳

印刷者 東京都文京区後楽2-11-2 道野整版所

発行所 東京都千代田区西神田 1-2-15 石合ビル

株式会社 太平出版社 ©

振替東京99563 電話東京291-9744・9752, 294-7083

乱丁・落丁本はおとりかえいたします 日本音楽著作権協会出誌第4425095

日本民衆詩集



編者紹介

岡本 潤 おかもと じゅん 1901年生 詩人 新日本文学会会員
詩集『檻樓の旗』『笑う死者』自叙
伝『罰当りは生きている』ほか

関根 弘 せきね ひろし 1920年生 詩人 新日本文学会会員
『関根弘詩集』『関根弘詩論集』
『わが新宿』『東大に灯をつける』
ほか

日本民衆詩集

1970年5月30日 第1刷発行

¥680

編 者 岡本潤・関根弘

発行者 東京都千代田区西神田 1-2-15 石合ビル
崔 容 徳

印刷者 東京都文京区後楽2-11-2 道野整版所

発行所 東京都千代田区西神田 1-2-15 石合ビル
株式会社 太平出版社 ©

振替東京99563 電話東京291-9744・9752, 294-7083

乱丁・落丁本はおとりかえいたします 日本音楽著作権協会出誌第4425095

日本民衆詩集

岡本潤・関根弘 編

太平出版社

例 言

1 本書は、近代日本の民衆から生まれた反体制・反権力・反軍の詩を集大成したものである。

2 ここでいう「民衆詩」については、せまい意味での概念規定を穿鑿^{せんさく}することをさけて、近代日本の強権に抗して生まれた詩であり、たとえそれが迂回的で屈折した形をとっているものにしても——民衆の側の体制批判としてすぐれ、民衆の意識の表現として代表的なものである限り広くあつめて、これを精選することにした。

3 本詩集は、すでに刊行された『日本反戦詩集』はもちろん、前後して刊行される『世界反戦詩集』『世界民衆詩集』『日本原爆詩集』『沖縄詩集』『第三世界詩集』などの姉妹企画として刊行されるものである。

4 戦前・戦中の弾圧のなかで、伏せ字によって発表された詩は、○印または×印でしめたが、伏せ字の部分の語句が推定できる

ものについては、行間に推定語句を入れた。

5 用字用語は、原則として当用漢字・現代かなづかいにしたがつた。

6 とくに明治・大正期の詩および特殊な読みかたを必要とするものについては、ルビを入れた。また、カタカナで発表されたものについては、そのまま原形にしたがつた。

7 本書を刊行するにあたり、有馬敏氏、添田知道氏、そのた多くの人のご協力をえた。ここに記して深く感謝の意を表します。

住所不明のために、作者または遺族の収録許可をえられないまま、本詩集におさめさせていただいた作品が数編ございます。お気づきの方は、編集部あてご一報くださいますようお願いいたします。

一九七〇年五月

太平出版社 編集部

例 言	3
-----	---

I 自由民権歌

II 労働歌・革命歌

民権数え歌	(伝)	植木	枝盛	22
民権田舎歌		植木	枝盛	23
民権都々逸	(伝)	坂崎	斌	25
民権自由数え歌		植木	枝盛	26
自由歌(その二・その三)		植木	枝盛	27
自由の歌		小室	屈山	29
むかしおもえば		作者	不詳	31
圧制しゃんす節		作者	不詳	32
雞の歌		児玉	花外	34
花外に与う		幸徳	秋水	36
我等の味方		小塚	空谷	37
驚の歌		松岡	荒村	38
隴頭感慨		大塚	甲山	38
マザー・ジョーンズ		山口	孤劍	39
ロオザ・ルクセンブルク		生田	春月	40
獄中に歌う		後藤謙太郎		40
はてしなき議論の後(一)		石川	啄木	41

Ⅲ 仕事歌Ⅱ新民謡

富の鎖	(伝)高浜 長江	42
革命歌	築比地仲助	42
赤旗の歌	秋田雨雀(?)	44
労働歌	(伝)友愛会鉄工組合	45
水平歌	三重県水平社本部	45
曉民会の歌	作者 不詳	46
学連の歌	清水平九郎	47
インターナショナル	佐々木孝丸・佐野碩 訳	48
女工小唄	作者 不詳	50
坐繰製糸唄(群馬)	作者 不詳	51
佐渡の金山	作者 不詳	52
常磐炭坑節(茨城)	作者 不詳	53
炭坑節	石田喜代夫	54
高島炭坑節(長崎)	作者 不詳	54
稗搗節(宮城)	作者 不詳	55
ダイナマイト節	演歌壮士団	58
オッペケペー節	若宮万次郎	59
無茶苦茶節	久田 鬼石	60
擲雷武志	不知 山人	61

Ⅳ 演 歌

四季の歌		不知山人	62
ストライキ節		横江鉄石・不知山人	62
ラッパ節		添田啞蟬坊	63
平民ラッパ節		添田啞蟬坊	63
社会党ラッパ節		添田啞蟬坊	64
新四季の歌		作者不詳	65
ああ金の世		添田啞蟬坊	67
ああわからない		添田啞蟬坊	69
あきらめ節		添田啞蟬坊	73
当世字引歌		添田啞蟬坊	74
ゼーゼー節		添田啞蟬坊	75
伏せ字演歌		添田啞蟬坊	76
思 い 草		添田啞蟬坊	76
マガイイソング		竹石 夢村	76
チョイトネ節(紫節)		添田啞蟬坊	77
スカラーソング		神長 瞭月	77
ハイカラ節		神長 瞭月	78
奈良丸くずし		添田啞蟬坊	78
新どんどん節		後藤 紫雲	79

マックロ節	添田啞蟬坊	80
現代節	添田啞蟬坊	81
青島節 (ナツチョラン)	添田啞蟬坊	82
サアサ事だよ	添田啞蟬坊	83
ブラブラ節	添田啞蟬坊	84
ノンキ節	添田啞蟬坊	85
豆粕ソング	添田啞蟬坊	87
イキテルソング	添田啞蟬坊	88
東京節 (パイノパイ)	添田さつき	89
「ディアボロ」替歌	添田啞蟬坊	90
平和節	添田さつき	91
新馬鹿の唄 (ハテナソング)	添田啞蟬坊・山路赤春	93
新わからない節	添田啞蟬坊・山路赤春	95
風の旅 (元歌 流浪の旅)	添田啞蟬坊	97
貧乏小唄 (元歌 船頭小唄)	添田啞蟬坊	98
隠亡小唄 (元歌 船頭小唄)	添田啞蟬坊	98
月は無情	松崎ただし・渋谷白涙	99
ストトン節	添田さつき	99
金々節	添田啞蟬坊	101

V
軍
歌

思い出した……………	添田さつき	103
生活戦線異状あり……………	添田啞蟬坊	104
海ゆかば……………	大伴 家持	108
道は六百八十里……………	石黒 行平	108
士氣の歌……………	久田 鬼石	109
婦人従軍歌……………	加藤 義清	109
雪の進軍……………	永井 建子	110
戦 友……………	真下 飛泉	111
広瀬中佐……………	文部省唱歌	113
ヨサホイ節……………	秋月 四郎	113
数え唄 花子さんよ……………	作者 不詳	114
ハート・ソング……………	渋谷 白涙	115
朝鮮北境警備の歌……………	星 善四郎	116
軍隊小唄……………	下条ひでと	116
ラバウル小唄……………	若杉雄三郎	117
軍隊のぞき節……………	野村 俊夫	117
海軍小唄……………	作者 不詳	118
ダンチヨネ節（三浦岬民謡）……………	作者 不詳	119
蒙 躰ぶし……………	作者 不詳	119

VI 流行歌

可愛いスーチャン	作者	不詳	120
ハバロスク小唄	鈴木	克東	120
人を恋うる歌	与謝野鉄幹		124
ああ玉杯に花うけて	矢野	勘治	126
カチューシャの唄	島村抱月・相馬御風		126
ゴンドラの唄	吉井	勇	127
さすらいの歌	北原	白秋	127
船頭小唄	野口	雨情	128
籠の鳥	千野	かほる	128
出 船	勝田	香月	129
波浮の港	野口	雨情	129
アラビアの唄	堀内	敬三	130
君 恋 し	時雨	音羽	130
東京行進曲	西条	八十	130
紅屋の娘	野口	雨情	131
祇園小唄	長田	幹彦	132
酋長の娘	石田	一松	132
女給の唄	西条	八十	133
侍ニッポン	西条	八十	133

ルンペン節……………柳 水巴

酒は涙か溜息か……………高橋掬太郎

涙の渡り鳥……………西条 八十

満州行進曲……………大江 素天

影を慕いて……………古賀 政男

天国に結ぶ恋……………柳 水巴

討 匪 行……………八木沼文夫

島 の 娘……………長田 幹彦

サーカスの唄……………西条 八十

ほんとにそうなら……………久保田宵二

赤城の子守唄……………佐藤惣之助

並木の雨……………高橋掬太郎

明治一代女の唄……………藤田まさと

船頭可愛や……………高橋掬太郎

忘れちゃいやよ……………最上 洋

ああそれなのに……………星野 貞志

うちの女房にゃ髭がある……………サトウ・ハチロー

裏町人生……………島田 馨也

湖底の故郷……………島田 馨也

145 145 144 143 143 142 142 141 141 140 140 139 138 137 137 136 135 135 134

流 転	藤田まさと	146
露営の歌	藪内喜一郎	146
上海だより	佐藤惣之助	147
日の丸行進曲	有本 憲次	147
雨のブルース	野川 香文	148
上海ブルース	北村 雄三	149
父よあなたは強かった	福田 節	149
愛馬進軍歌	久保井信夫	150
古き花園	サトウ・ハチロー	151
出征兵士を送る歌	生田太三郎	152
暁に祈る	野村 俊夫	152
誰か故郷を想わざる	西条 八十	153
湖畔の宿	佐藤惣之助	153
熱砂の誓い	西条 八十	154
十三 夜	石松 秋二	154
明日はお発ちか	佐伯 孝夫	155
湯島の白梅	佐伯 孝夫	155
勘太郎月夜唄	佐伯 孝夫	156
若鷺の歌(予科練の歌)	西条 八十	156

啼くな小鳩よ……………	高橋掬太郎	157
夜のプラットホーム……………	奥野椰子夫	157
星の流れに……………	清水みのる	158
フランチェスカの鐘……………	菊田 一夫	158
小判鮫の唄……………	高橋掬太郎	159
異国の丘……………	増田 幸治	159
トンコ節……………	西条 八十	160
悲しき口笛……………	藤浦 洸	160
越後獅子の歌……………	西条 八十	161
連絡船の唄……………	大高ひさお	161
上海帰りのリル……………	東条寿三郎	162
ゲイシャ・ワルツ……………	西条 八十	162
五木の子守唄（熊本）……………	作者 不詳	163
お富さん……………	山崎 正	163
別れの一本杉……………	高野 公男	164
愛ちゃんはお嫁に……………	原 俊雄	165
バナナ・ポート……………	E・ダーリン ほか	165
だからいったじゃないの……………	松井由利夫	166
星はなんでも知っている……………	水島 哲	167